SDT-002/トレイルトリッパー 2

取扱説明書

SDT-002

このたびは、スノーピーク製品をお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。
安全にご使用頂くためにも本取扱説明書を必ずお読みください。
取扱説明書は大切に保管してください。

注意事項

フィールドでは予測不可能な事態が突発的に発生し、時にはプロダクツの性能を超えるような状況に直面する場合もあります。以下の説明がすべての危険な状況を説明している訳ではありません。プロダクツの性能をよく理解したうえで安全なキャンプをお楽しみください。

火気厳禁

□このテントの素材は難燃性ではありません。テント内では燃焼式のランタンやコンロ、ヒーターなどの熱源や、マッチ、ローソク、ライター、タバコなど裸火や炎は絶対に使用しないでください。限られた空間での火気の使用は火災や酸欠、一酸化炭素中毒などの恐れがあり大変危険です。

□テント内で燃料を保管したり、燃料を補給するなど、引火性のあるものを持ち込まないでください。

□高温に加熱されたものや発熱性のあるものを持ち込まないでください。

天候・気象状況

□気象状況には常に細心の注意を払い、悪天候が予想されるときは速やかにキャンプを中止して安全な場所へ避難してください。万一悪天候にみまわれた場合や、風の強い時などはペグや張り綱がしっかりとつながれているかなどを点検してください。

□急な積雪によりフライシートの裾が覆われたり、低温下で氷結したときなど、極端に通気性が悪く酸欠になります。こまめに除雪したり入り口を開けるなどして常に換気をしてください。

□日差しによりフライシート表面は低温やけどに発展するほどの高温になります。十分にご注意ください。

□天候によりテント内は高温になり、熱中症などの危険があります。お子様の昼寝の際など、細心の注意を払ってください。

設営・設営場所

□風の吹きぬけるような場所や、雪崩、がけ崩れ、急な出水などの恐れのない地盤のしっかりとした、水はけのよい平坦な場所を選んで設営してください。

□燃焼式のランタンやコンロ、ヒーターなど熱源のそばで組み立てたり、使用しないでください。万一熱源が転倒したり落下しても延焼しない距離を保ってください。

□たき火や花火などのそばで組みたてたり、使用しないでください。特に風下側では火の粉を履り、生地に穴をあけてしまう場合があります。

□樹液が付着してしまうときれいに除去することはできません。樹液が垂れそうな木の下を避けて設営してください。溶剤などにより無理に除去すると生地やコーティングを痛めます。

□テントの設営・撤収の際は、フレームをしっかりと掴んで作業してください。フレームの先端がハネ返るなどして思わぬ事故になりますので、近くに人がいないかなど、周囲の安全を確認してください。

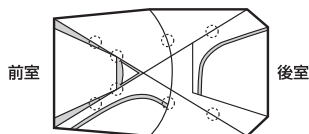
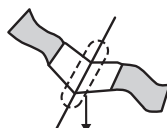
□ペグや張り綱でしっかりと固定してご使用ください。

□弊社のテント、タープ、リビングシェルなど縫製品は常設用ではございません。

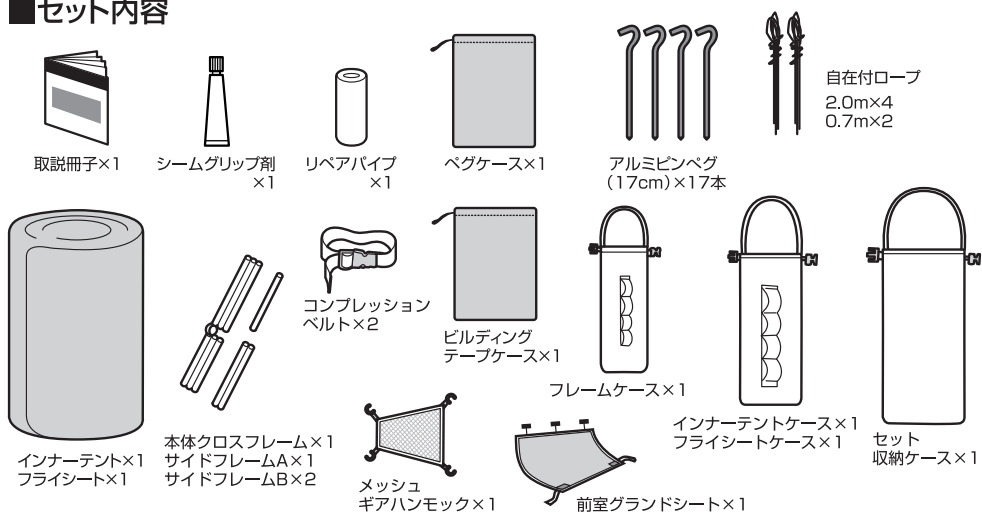
初めてお使いになる前に

□品質には万全を期しておりますが、お使いになる前に必ず試し張りを行い、付属品や設営手順を確認してください。万一不具合があった場合は、お買い求めになった販売店または弊社ユーザーサービス係までお問い合わせください。

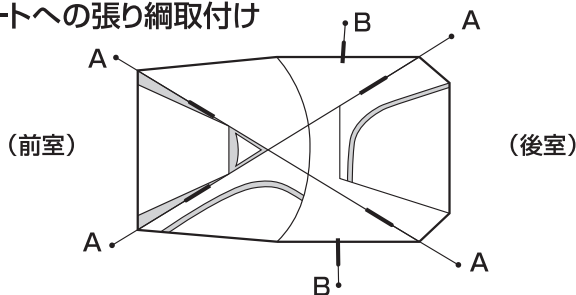
シームグリップ剤による目止めについて

□縫製部分にはシームテープによる防水処理が施してありますが、フライシートのベンチレーター部やファスナー部分、ボトムシートの一部は、製造の都合上または構造上シームテープが施せない部分があります。通常の雨は十分対応できますが、長時間の大雨や横なぐりの雨、地面に雨水が溜まっているような状態では、縫い目から雨水が侵入することがありますので必要に応じて縫い目にシームグリップ剤（目止め液）を塗布してください。シームグリップ剤は縫い目にそって表裏の両面からうすく塗布し、よく乾燥させてください。シームグリップ剤は時間とともに硬化してきます。剥離したときは塗布しなおしてください。また、当社ではシーリング作業サービスは行なっておりません。テントをより完璧な状態で使用するためにご協力をお願いいたします。

フライシート表側
ずれ防止ベルクロテープ部
丸印8ケ所。

フライシート裏側
ずれ防止ベルクロテープ部の
表と裏側にシームグリップ剤
を塗布してください。

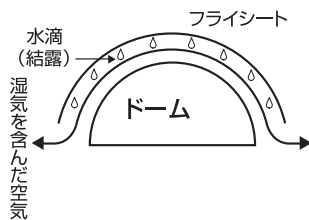
■セット内容

- 取説冊子×1
- シームグリップ剤×1
- リペアパイプ×1
- ペグケース×1
- アルミピンペグ（17cm）×17本
- 自在付ロープ 2.0m×4 0.7m×2
- インナーテント×1 フライシート×1
- 本体クロスフレーム×1 サイドフレームA×1 サイドフレームB×2
- コンプレッションベルト×2
- ビルディングテープケース×1
- フレームケース×1
- インナーテントケース×1 フライシートケース×1
- セット収納ケース×1
- メッシュギアハンモック×1
- 前室グランドシート×1

□セット内容は一般的な条件下での設営を基本としたものです。頑丈で長めのペグや、ロープなどを用意されると、柔軟な対応が可能となります。ペグやロープ、自在などは消耗品ですので、常に予備を携行することをお勧めします。
※本体クロスフレームは、組立を補助する為、一部に曲げ加工を行っております。

■部分名称

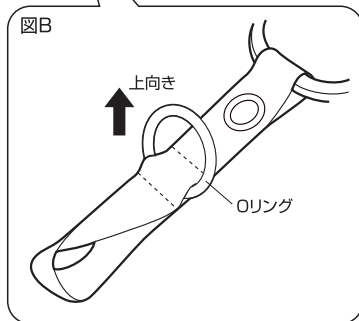
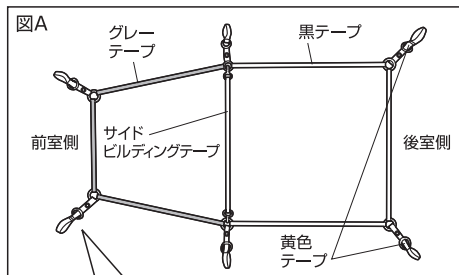
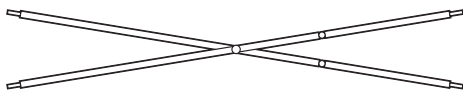
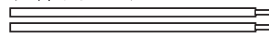
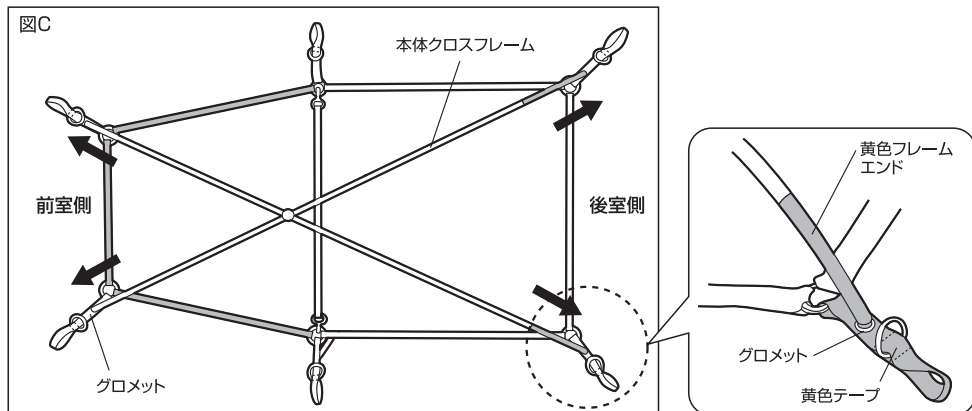
■フライシートへの張り綱取付け

■テント天井部には小物を吊すループが付いています。1kg/1ケ所を超えない範囲でご使用ください。

■結露について

空気中に含まれている水分が急激に冷やされて霧状になったものが結露として現れます。特に狭いテント等の空間では、通常の室内よりも水蒸気の濃度が高くなり結露の発生する確率が高くなります。原因としては、人体構成要素の約60%を占める水分が、呼吸や汗などにより放出され、水蒸気となりテント内に結露が発生します。テント内では、特にフライシート・ボトム部分などの防水性能が高い部分に結露が発生しやすくなります。結露は優れた透湿防水素材でも使用状況により完全に防ぐことは不可能です。ご使用中は結露軽減のために適時換気を行なってください。

設営の手順

※設営は必ず2人で行なってください。

1)ビルディングテープを広げます。〔図A〕
この時、前室/後室の境目に、サイドビルディングテープをフッキングします。各コーナーのペグループ部分に縫い付けられているOリングが上向きになるようにセッティングしてください。〔図B〕
グレーテープ側が前室、黒テープ側がテント本体側になります。
※主に前室側がメインの出入口となります。あらかじめ風雨などの予測をし、前室の方向を決めておくことが必要です。基本的に前室は風下に向けます。風上に向けると、風雨が侵入するばかりかドアを開けた際に突然風が入り、本体を破損する場合があります。

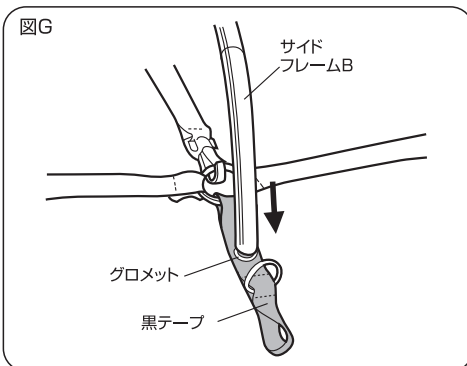
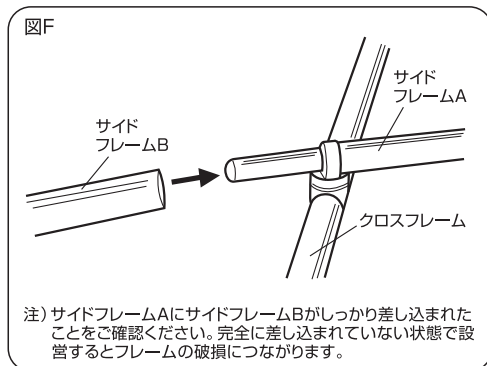
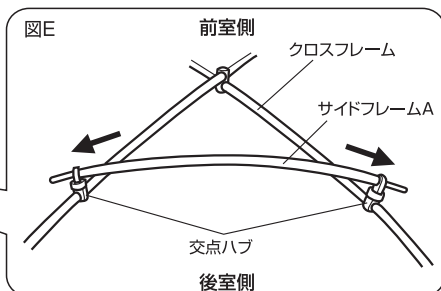
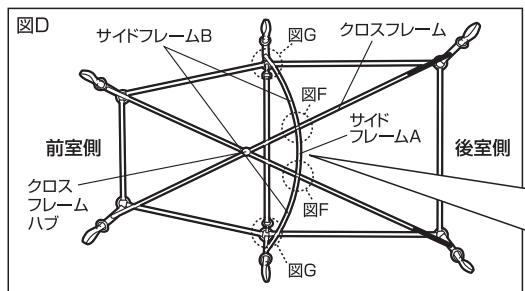
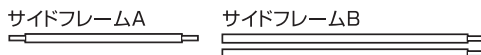
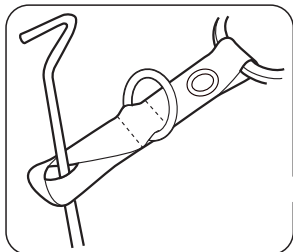
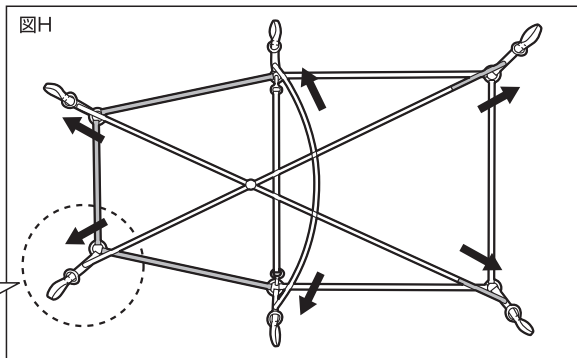
2)本体クロスフレーム、サイドフレームA,Bを伸ばし、接続部分をしっかり連結します。
※フレームの連結部分にすき間ができないように、しっかりと差し込んでください。

3）本体クロスフレームをビルディングテープ四隅のグロメットに差込みます。黄色のテープに黄色のフレームエンドを差し込みます。〔図C〕

4）サイドフレームを取り付けます。〔図D〕〈b～cの作業は片方ずつ行います。〉

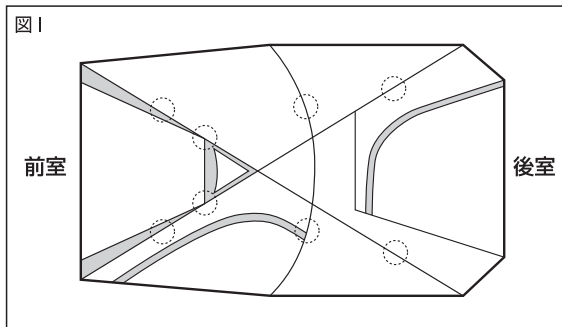
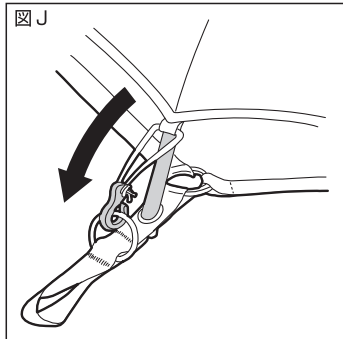
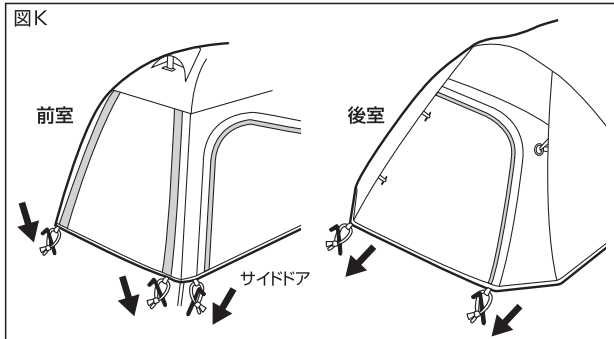
a）サイドフレームAの両端をクロスフレーム中間にある交点ハブに差し込みます。〔図E〕

b）サイドフレームBを交点ハブに取り付けたサイドフレームAに連結します。〔図F〕

c）サイドフレームBの端部を、前室／後室の中間にあるビルディングテープエンドのグロメットに差し込みます。〔図G〕

サイドフレームA　サイドフレームB

注）サイドフレームAにサイドフレームBがしっかり差し込まれたことをご確認ください。完全に差し込まれていない状態で設営するとフレームの破損につながります。

5）ビルディングテープに弛みが生じないように、ペグダウンループにペグを通し、打ち込みます。〔図H〕

※下記6）→7）→8）の設営手順は、8）→6）→7）の手順でも可能です。収納時も同様にインナーテント、フライシートどちらからの収納も可能です。

6）前室・後室の方向を確認しフライシートを被せます。
フライシートの内側についている、ずれ防止のベルクロテープをフレームに巻き付けて固定します。〔図I〕

7）フライシート裾の6個のフックをペグダウンループに付いているOリング6箇所に引っ掛けます。〔図J〕
※ビルディングテープをつないでいるリングに引っ掛けるとフライにテンションが掛かりづらくなるのでご注意ください。
前室・後室・サイドドア下部のゴムループを引きペグを通し、打ち込みます。〔図K〕
※特にジッパー下部分のゴムループは必ずペグダウンしてください。ジッパーが開きにくくなったり、フラップ部にスライダーが噛みやすくなります。
※引きすぎにご注意ください。引きすぎますと、ファスナーに負担がかかり破損する恐れがあります。

8)インナーテントを吊り下げます。〔図L〕

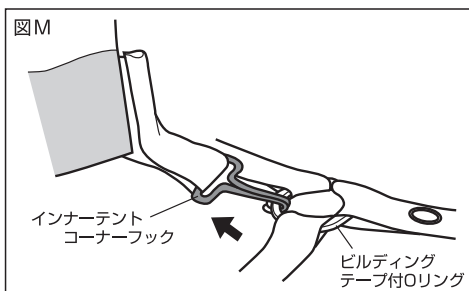
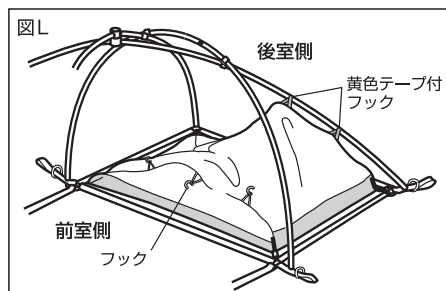
a)インナーテントの前後を確認し、ビルディングテープ内部に広げます。

※インナーテントは前後に出入口がありますが、黄色テープ付きフックがあるパネルが、後室側になります。

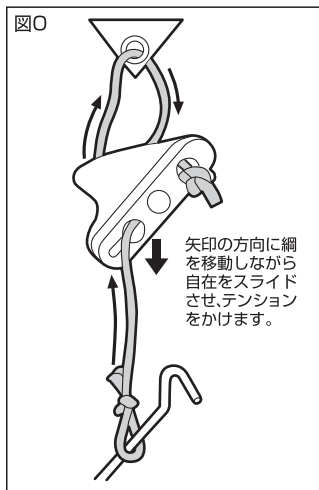
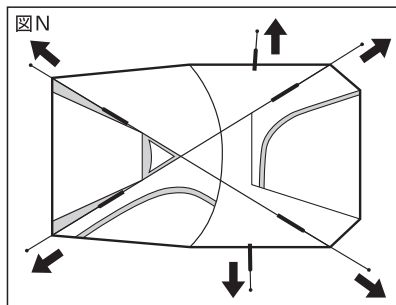
b)インナーテントボトム四隅にあるコーナーフックを、ビルディングテープ付Oリングに引っ掛けます。〔図M〕

c)インナーテントに縫い付けられているフックを本体フレーム、サイドフレームそれぞれに掛けていきます。〔図L〕

図L

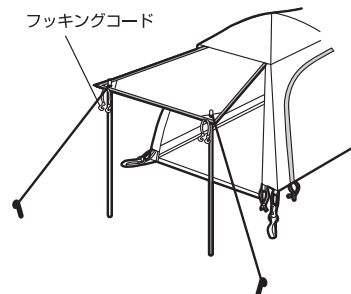
図M

9)各張り綱を伸ばし、ペグを打ち込みます。〔図N〕

図N

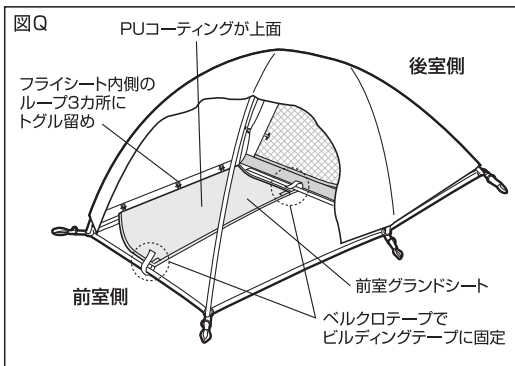
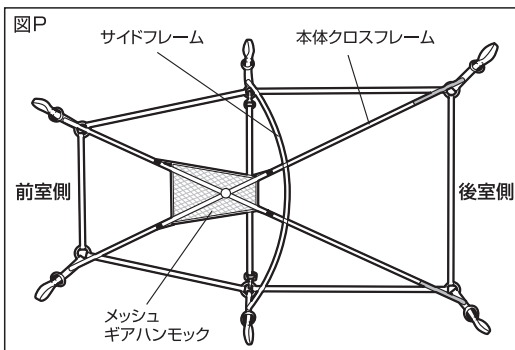
図O

10)張り綱の自在を引き、テンションをかけます。〔図O〕

※引きすぎにご注意ください。引きすぎますとフライシートに負担がかかり破損する恐れがあります。

11)フロントドアパネルを張り出す場合は、付属のフッキングコードをオートバイなどに引っ掛けて立ち上げるか、別売のライトタープポール125×2本セット(TP-161)をご使用ください。

注)降雨時のドアパネルは、水が溜まりやすくなりますので、ポールを斜めに倒し勾配をつけるなどして、水の逃げ道をつくり溜まらないようにします。

■付属品に関して

①メッシュギアハンモック〔図P〕
本体クロスフレーム中心部分にメッシュギアハンモック四隅のフックを掛けます。
※四隅のゴム紐を強く引いたり、メッシュ部分に過度の重さを掛けますと破損の原因になりますのでご注意ください。

②前室グランドシート〔図Q〕
フライシート前室内側にあるループ3ヶ所にグランドシートトグルを留めます。（PU加工面が上を向くように装着してください）
グランドシートコーナーにあるベルクロテープをビルディングテープに留めます。

■収納時の注意事項

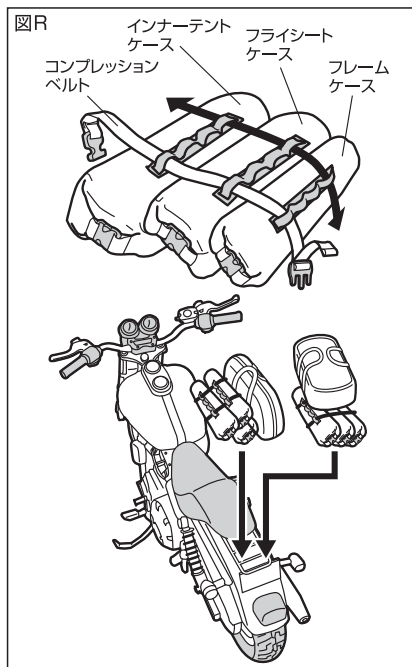
□フレームをピンから外す時はフレームがハネ返り危険です。フレームが真っすぐになるまで手を離さないでください。

□フレームは中央から端に向かって折り畳んでください。端から折り畳むとショックコードに負担がかかり伸びや切断の原因になります

■ケースへの収納

①各キャリーバックの大きさに合わせ、インナーテント、フライシート、フレームを折り畳み収納します。

②ペグやビルディングテープはそれぞれの専用ケースに入れ、キャリーバッグへ収納してください。むきだしの状態で収納すると本体生地やキャリーバッグを損傷することがあります。

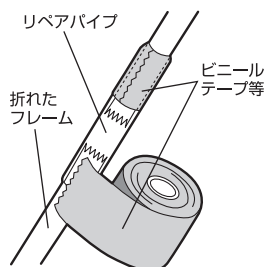
③インナーテント、フライシート、フレームのケース本体のループに付属のコンプレッションベルトを通し束ねることで、オートバイの荷台などに積みやすいスタイルをアレンジできます。〔図R〕

永くお使い頂くために

スノーピーク製品の優れた品質は正しい取り扱いとメンテナンスにより維持されるものです。プロダクツの機能を損なわないためにも、以下のポイントに留意してください。

応急処置

□不測の事態によりフレームや、本体生地が損傷する場合がありますので、リペア用品（ガムテープ、ビニールテープ、添え木になるようなパイプなど）を携行し、速やかに応急処置を施してください。損傷したまま放置すると、大がかりな修理が必要になったり、修理不能になる場合があります。損傷度合いが激しいものは速やかにガムテープなどで両面から貼り合わせるか、撤収してください。

□本体生地が破れてしまったり、穴があいてしまったときは、傷が広がらない為にも、速やかにガムテープなどで両面から貼り合わせるか、撤収してください。

□フレームが折れたときは速やかにリペアパイプや添え木をあて、ビニールテープなどで固定するか、撤収してください。

撥水・防水性能について

□本製品はいずれの生地にも高性能の撥水加工を施していますが、生地の特性上、撥水性能（撥水の仕方や、耐久性）に若干の差が見られる場合があります。ご了承ください。

□撥水加工は、ご使用を重ねますと撥水機能が低下します。撥水性が衰えてきたときは市販の撥水スプレーなどを使用してください。スプレーご使用の際は、スプレーの注意書きをよくお読みください。

□防水性の高い生地を使用しておりますが、地面の水溜まりなどと長時間接触していると雨水が浸み込む場合があります。

□農薬などでPUコーティングが破壊され耐水圧が異常低下してしまう場合がございます。
この症状と判断された場合、製品の保証が出来なくなりますのでご注意ください。

□強力な撥水材の影響によりロゴマークが剥離する場合がございます。

紫外線の影響について

□本製品にはフライシートの生地にUVカット加工を施しています。UVカット加工は、人体にとって有害な紫外線の透過を抑えると共に、生地の強度劣化を緩和します。
※UVカット加工は、紫外線による人体への影響や、素材劣化を防止するものではありません。

□テント素材は長時間日光にさらされた場合、退色や生地劣化などの強度低下を起こしますので、常設用として使用しないでください。

□紫外線の影響と思われる素材の劣化により、耐久度合を超えたものは修理できない場合があります。

メンテナンス・保管

□本製品にはナイロン生地とポリエステル生地を組み合わせて使用しています。生地の特性を考慮し、できる限り色移りし難い加工と配色パターンを採用していますが、保管状態などにより、若干の色移りが発生する場合があります。ご了承ください。また、濡れたままの保管は避けてください。

□濡れたまま保管すると、カビや異臭、生地の色うつり、生地の劣化などのトラブルの原因となりますので、使用後は風通しの良い日陰で十分に乾燥し、柔らかいブラシなどで汚れを落としてから保管してください。

□フレームを通した状態のままで逆さまにしないでください。フレーム折損や生地損傷の原因になります。

□フレームは表面の汚れを落とし、十分に乾燥させてから保管してください。濡れたまま保管すると腐食し、強度が低下します。
ジョイント部分は常に清潔にし、少量のシリコン系潤滑剤を薄く塗布してください。塗布し過ぎると生地に油ジミができますのでご注意ください。
またフレーム内部のショックコードは不必要に引っ張らないでください。

□高温多湿を避け、直射日光の当たらない風通しのよい場所に保管してください。

□ファスナーに泥や砂、ホコリなどが付着したまま使用すると摩耗し破損の原因になりますので、ブラシなどを使い常に清潔にしてください。また、スライダーの動きを滑らかにするために、少量のシリコン系潤滑剤を定期的に塗布してください。塗布し過ぎると生地に油ジミができますのでご注意ください。

□小さな生地の破損は市販のリペアテープで補修できます。補修の際はリペアテープの説明書をよくお読みください。

□ご使用により広範囲にわたり素材が劣化し、耐久度合を超えたものは修理できない場合があります。

□次回の使用に備え、ペグなどの付属品も含め、十分に保守、点検をしてください。

修理について

□本格的な修理が必要な場合は、お買い求めになった販売店または弊社ユーザーサービス係までお問い合わせください。

□修理を依頼される場合は、必ず十分に乾燥させ、汚れをきれいに落としてください。

□修理品には修理箇所がはっきりと解るように、必ずメモまたは荷札を付けてください。また破損時の状況をできるだけ詳しく書いたメモを添えてください。

□修理品の運賃並びに修理費については以下のように規定させていただきます。
1.保証対象の場合:往復運賃並びに修理費は、弊社にて負担いたします。
2.保証対象以外の場合:往復運賃並びに修理費は、お客様のご負担とさせていただきます。

トレイルトリッパー 2

<正面>

110 室内高

210

室内寸法

<側面>

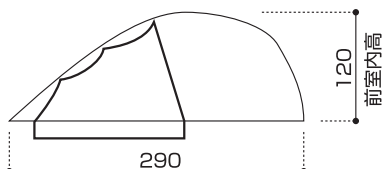
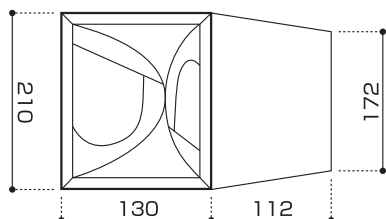
120 前室内高

290

<平面>

210

172

130 112

<室内寸法>

単位cm

品質表示
SDT-002 トレイルトリッパー 2

●材質
フライシート／75Dポリエステルリップストップ･耐水圧1,800mmミニマム･テフロン撥水加工（初期撥水100点、5回洗濯後90点）･UVカット加工
インナーウォール／68Dポリエステルタフタ
ボトム／75Dポリエステルタフタ･PUコーティング･耐水圧1,800mmミニマム
フレーム／超々ジュラルミンA7001（φ11mm･φ10.2mm）

●キャリーバックサイズ　50×20×20（H）㎝

●平均総重量　4.10kg
（フレーム、ペグ、ロープ含む）

品質保証について

スノーピークのプロダクツは、フィールドで確実に機能するためにフィールドテストからスペックが決定し、長期間にわたって使い込んでいただけるような品質管理がなされています。万一、明らかに製造上の欠陥による問題が生じたときは、無料で修理又は新品と交換させていただきます。また、以下のような破損につきましては保証できませんのでご了承ください。

1.不測の事故による製品の破損
2.誤った使い方や粗雑な扱いによる製品の破損
3.経年変化や紫外線の影響による素材の劣化
4.その他製造上の欠陥以外による製品の破損
5.改造品の破損

※ご不明な点やお気付きの点がございましたら、販売店又は弊社ユーザーサービス係までお問い合わせください。

株式会社スノーピーク
〒955-8616 新潟県三条市三貫地958
tel:0256-38-1110　fax:0256-38-1015
w w w . s n o w p e a k . c o . j p

MADE IN CHINA